

たことで、機構の役割の理解を深める良い機会となりました。

また、参加者に配布したアンケート結果では「大変満足した」という回答とともに次回開催を希望する意見が多く寄せられました。

IPMU野本憲一主任研究員らを 中心とする国際チーム、 新タイプの超新星発見

IPMUの野本憲一主任研究員らを中心とする国際研究チームは、2008年1月に発見された超新星が、中規模の星の爆発による新しいタイプのものであるということを発表しました。

この超新星の明るさの変化や可視光のスペクトルなどを分析することで、太陽の質量の25倍くらいの星が爆発したらしいことを研究チームは突き止めました。このような中規模の星による超新星は、理論的には予測されていたものの、存在が確認されたのは初めてです。この成果は2008年7月24日付けの米国の科学雑誌『Science』のオンライン版に掲載されました。

研究会報告 ——フォーカスウィーク：第2回LHC現象論

2008年6月23日-27日の期間、IPMUにおいて「フォーカスウィーク：第2回LHC現象論」が開催されました。「第1回LHC現象論」は2007年12月17日から21日の5日間、IPMUの野尻美保子主任研究員を中心として組織・開催されましたが、第2回においても「フォーカスウィーク」形式で開催されることとなりました。

この研究会の目的は、2008年9月10日にスイスのジュネーブにあるCERN（欧州原子核研究機構）で開始が予定されているLHC（大ハドロン衝突加速器）における実験を見据え、LHC実験で起こる物理過程を研究する実験・理論の研究者を集結することによって、素粒子の標準理論を超えた「新しい物理」の研究を発展させることです。

第1回の成功を踏まえ、第2回LHC現



象論においても1日あたり2ないし3講演に留めたことで、残りの時間を議論のため有効に生かすことができました。

今後の研究会 ——フォーカスウィーク： 量子ブラックホール

2008年9月12日-16日の5日間、東京大学柏キャンパス図書館メディアホールにおいて、「フォーカスウィーク：量子ブラックホール」が開催されます。このフォーカスウィークは量子ブラックホールの理解と新たな分野、新たな数学のさらなる発展を狙いとしています。

以下の招待講演者が予定されています。

海外より：Atish Dabholkar（パリ第6大学）、Veronika Hubeny（ダラム大学）、Mukund Ramgamani（ダラム大学）、飯塚則裕（KITP）、Daniel Kabat（コロンビア大学）、Gautam Mandel（TIFR）、Sunil Mukhi（TIFR）

国内より：磯 暁（KEK）、夏梅 誠（KEK）、西村 淳（KEK）、関野 恭弘（OIQP）、橋本 幸士（理研）、百武 慶文（大阪大学）、Wei Li（IPMU）、高柳 匡（IPMU）

——ワークショップ： シンプレクティック多様体上の 超局所解析

2008年9月16日-18日の3日間、東京大学新領域環境棟のFSホールで、「ワークショップ：シンプレクティック多様体上の超局所解析」が開催される予定です。IPMUの斎藤恭司主任研究員が中心となって組織されています。

数学で変形量子化と呼ばれる現象をシンプレクティック多様体上の層とし

柏市民向け公開講座

2008年7月12日、東京大学柏図書館のメディアホールにおいて、市民公開講座「宇宙に終わりはあるか」が開催されました。

この市民公開講座は昨年10月1日の機構発足後初めての試みで、当初は先着150名の開催を予定していましたが、定員を大幅に上回る300名以上の申し込みが殺到しました。これに対応するため、村山機構長は1日に2回の講演を行いました。

当日は村山機構長の講演と質疑応答のち、機構長と参加者の懇談を行いました。参加者からは質問が多く寄せられ、機構長と直接話せる機会も設け



上：機構長の講演を熱心に聞く参加者
下：参加者に囲まれる機構長

てとらえるとともに、フロベニウス作用を通して数量化する研究が進展しています。

このワークショップでは、柏原正樹氏によるその理論の基礎から表現論への応用に至るまでの基調講演後、専門家による最新の話題の研究講演をお願いしています。対象は大学生以上です。

ティータイム

IPMUでは毎日午後3時から、ティータイムの時間を設けています。研究者が物理学、天文学、数学の垣根を超えて集まり、クッキーを食べ、お茶を飲みながら交流を深めています。

それぞれ専門の違う研究者が顔を合わせ、リラックスした雰囲気のなか時間を共にすることは、研究状況の理解や共有に有効な手段となっています。

また、自国紹介やお国自慢、日本での生活情報交換など、外国人が多いIPMUならではの会話も大いに弾んでいます。



IPMUホームページ

IPMUのホームページがリニューアルされました (<http://www.ipmu.jp/>)。

従来の機構案内やお知らせページに加え、訪問者向け・職員向けのコンテンツや柏での生活情報を新たに掲載しています。訪問者向けコンテンツではピザや宿泊情報など日本滞在に際して便利な情報を見ることができます。これからIPMUで研究を行う職員向けには、日本での生活情報のほか、IPMUでの研究費や図書館利用などに関する

案内も掲載されています(職員向けの情報を閲覧するためにはパスワードが必要です)。IPMUではホームページを通じて、研究生活をサポートしています。

日本語教育

IPMUは、新規で着任した外国人研究者に合計40時間、1日2時間の日本語入門クラス集中コースを無料で提供しています。日本で生活する上で最低限必要な日常会話の習得ができます。最終日には日本語でスピーチをする発表の場も設けてあります。また、コース終了後は希望者に向けて上級クラスも設けています。このサービスを受けて、何人かの研究者は日本語の習得にも熱心に励んでいます。



セミナー

世界中から研究者を招き、毎週水曜日の午後3時半より柏キャンパス内のIPMUにおいて定期的にセミナーを行っています。セミナー情報はIPMUのホームページ上にあるセミナー情報のページ (<http://www.ipmu.jp/seminars/>) で確認することができます。この定期セミナーは、異なる分野の研究者同士の相互理解の促進を目的のひとつとしています。

また、分野ごとのセミナーも開催しています。現在、素粒子物理・天体物理セミナーは木曜午後1時半、数学・数理論理セミナーは木曜午後3時半に開催されています。セミナー講演はすべて英語で行われ、駒場キャンパスにおいても数学分野のセミナーを開催し

ています。

2008年6月18日以降、8月末までに行われたIPMUセミナー、IPMU駒場セミナーの一覧については、本誌24ページを参照してください。



人事異動

IPMU博士研究員の清水康弘さんが、東北大学国際高等研究教育機構国際高等融合領域研究所助教に転出されました。IPMUの滞在期間は2008年4月1日から2008年6月30日でした。今後のご活躍とご健康をお祈りします。

訂正

IPMU News No.2のNewsのコーナー (p.22、p.46) において、下記の通り訂正箇所があります。
p.22 3列 11行目: by the German prime minister
→by the German President
p.46 3列 1行目: ドイツ首相官邸→ドイツ大統領官邸
2行目: 首相主催のレセプション→大統領主催のレセプション